

青空



新年度が始まって2か月が経ち、新しい生活にも慣れてきた頃ではないでしょうか。

今年度もまだコロナ禍が続いてはいますが、この2年間の取り組みを生かしながら、随分とコロナ禍以前の教育活動に戻りつつあることも感じられるようになってきました。2年前の頃は、学校に子どもたちの姿はなく、6月中旬からでない通級を始められなかったことを考えると、今年は4月から元気な笑顔の子どもたちと学習が行えたことに、喜びを感じているところです。

これからも子どもたち一人一人が、明日への希望がもてるように、ことば・きこえの教室担任が一丸となって指導にあたります。通級での学習では、自分の苦手なことに向き合うことが多いため、在籍校やご家庭では、お子さんを励ましていただき、温かく見守っていただけたらと思います。

《在籍校の先生方へお知らせ》 ことば・きこえの教室説明会

6月には赤羽小学校の通級対象となっている全ての学校にうかがい「ことば・きこえの教室説明会」を行います。昨年度までは「担任連絡協議会」として、当教室の概要をお伝えしたり、通級児童の担任の先生とお話をさせていただいたりしておりました。通級児童を担任されている先生方とは、日頃から連絡帳などのやりとりで、当教室のことをご理解いただいているところですが、より多くの先生方にも当教室のことを知っていただきたいと思い、今年度からは「ことば・きこえの教室説明会」として実施させていただくことにしました。今年度もことば・きこえの教室のことや通級児童についてのお話ができればと思っております。また、通級をしていないお子さんでことばやきこえについて気になることがありましたら、ご相談いただければと思っております。

お忙しいことと存じますが、より一層連携しながら、子どもたちの支援、指導を行えればと思っておりますので、お時間をいただけますよう、よろしくお願いいたします。

6月・7月の行事予定

6月	6月 1日(水)	区の研究会のため午後の指導の一部お休み
	6月24日(金)	専門家診断のため午後の指導はお休み
	6月29日(水)	中学年グループ活動
	6月30日(木)	吃音グループ活動(15:10~16:30)
7月	7月 6日(水)	区の研究会のため午後の指導の一部お休み
	7月15日(金)	夏休み前指導終了



交流週間

6月末から夏休み前まで、交流週間を行います。同じ時間帯で学習している子どもたち同士でクイズやアンケートを考えて出し合ったり作品を見合ったりする間接的な交流を行う予定です。今後、子どもたちとも、楽しいコーナーを考えていきたいと思います。

合理的配慮について

ことば・きこえの教室に通級している子だけでなく、どの子にも得意なこと、苦手なことはあります。苦手なことに対して、どのようなフォローをしていくか、大人が考えて示すこともあれば、子どもと相談しながら進めることが良いこともあります。いくつか合理的配慮の例を挙げます。

【吃音のあるお子さん】

なかなかことばが出ないときに、「ことばが出にくくても、話し終わるまで、聞いてほしい。」と思う子もいれば、「言いたいことを、途中で察してことばを補ってほしい。」と思う子もいます。また、親切のつもりで言っている「ゆっくり話してごらん。」「息を吸ってごらん。」は、子どもたち本人が重々分かっていることを言われている思いがあり、言ってほしくないと感じている場合が多いです。本人と相談しながら対応することが大事になります。

【指示が通りにくく行動に移せないお子さん】

1番前の席ですぐに声を掛けられるように配慮することがあります。しかし、中には話を聞き取るよりも友だちの行動を見れば動けるお子さんもいます。その場合は、前から2番目など他の子の行動が見える席が有効なこともあります。

【文を読むことが苦手なお子さん】

漢字が読めないのか、文字に抵抗があるのか、ことばをまとまりとして捉えられないのか、目の動きがスムーズにいかないのかなど、原因は様々です。漢字にルビがあると読みやすいと感じる子もいれば、ルビが付くと文字数が多くなり余計に読みにくいと感じる子もいます。本人の得意なことから覚えやすい方法を探って、クラスの中で活用できるようにすると、学習により前向きに取り組めるようになります。

【発音に誤りのお子さん】

正しい音を出すための口や舌の動きが身に付いていないため、「サ」が正しく言えないお子さんに『サ』と言ってごらん』と言っても正しい音を出すことはできません。また指摘ばかりすると、話すことに消極的になってしまいます。言い直しをさせるのではなく、聞き手が正しい発音で返すようにすると良いです。

【難聴のお子さん】

音としては聞こえていたとしても、健聴者の聞こえ方とは違う聞こえ方であることを、周りが十分理解しておかなければなりません。

例として挙げたことは、ほんの一部にすぎません。どの子にも、一人一人にあった配慮が必要ですので、在籍校と連携しながら、それぞれのお子さんに、最も良い手だては何かを共に考えていきたいと思えます。

